

1 は池田晶子『14 歳の君へ』からの出題でした。中学生程度の読者を対象として書かれたものであり、文章それ自体の難易度はそれほど高くはなかったはずですが、ものごとの真理を追究する哲学的な考え方を考える機会が、日常生活の中にはあまりないでしょうから、その意味では難しく感じられたかもしれません。どのような文章でも、まずは文章中に書かれていることに沿って考えることを第一にしたいと思います。

問一は 1 ページ上段 4 行目にある傍線部の理由を答える問題です。「地球上の厄介もの人間」とありますので、なぜ人間が地球にとって厄介者なのかを説明することになります。このことについては傍線部の前の 1 行目に「洗剤を海に流すのはやめよう、資源を節約して森林を守ろう、身近なところから自然環境を保護してゆこうとね。」とありますので、この部分を利用してまとめます。資源を節約しないこと、自然環境を破壊していることの 2 点が落とせない要素になります。

問二は 1 ページ上段 10 行目にある「対立するもの」と同じ意味の言葉をさがす問題です。ここは人間と自然との対立を述べている部分ですので、13 行目の「そもそも、人間と自然とは別のものなのだろうか。」という部分に注目して「別のもの」を正解とします。

問三は 1 ページ上段 18 行目にある「このこと」の指示内容を説明する問題です。「この」は原則としてそれ以前の部分を指示する言葉ですので、前を探すことになります。また、「このことを考えるべきなんだ。」とあり、後続の文章では人間は自分自身が自然物なのだという内容が述べられていますので、14 行目の「生物の一種としての人間は、その意味で自然物だ。」という部分を利用してまとめます。

問四は 1 ページ上段 22 行目にある傍線部の理由を選択肢の中から選ぶ問題です。傍線部の中にある「人間を取り巻くそういう環境」とは一般的に自然と呼ばれる「海や山や、そこに生息するさまざまな動植物のこと」(21 行目)のことなどであり、これらに共通するのは人間の外部にあって目に見えることなので、アが正解です。イは「大自然の脅威にさらされて」という内容が本文にはなく、ウは「自然と共生」が文中のテーマからはずれます。エは「だけ」という限定が文中にはありません。正解のアは 1 ページ下段 31 行目の「人間はどうしても、目に見えるものだけが存在すると思いがやすい。」という文以下の内容に合致しています。

問五は 1 ページ下段 40 行目の空欄を補充する問題です。漢字三字という指定をヒントにすれば容易に見つかるはずですが、直後の記述から該当する言葉の対義語が「自然」である

ことが分かります。自然の対義語「人工」から考え、56行目にある「人工物」を見つければよいわけです。

問六は2ページ上段75行目にある傍線部の理由を説明する問題です。傍線部の中にある「こういう感じ」とは、「人間の意志を超えたこの力の存在を、不思議だと感じ」(73行目)のことであり、さらに「この力」とは「人間の意志を超えている力」(72行目)のことになります。つまり、人間の意志を超えて人間の体が動いていることをいうことになります。それを思い出せないのは、「体が自然であること忘れやすい」(1ページ下段48行目)からであり、それは「目には見えるけれども、半分は目に見えない。」ために「当たり前すぎて、忘れてしまう」のです。このあたりを指定字数でまとめます。

問七は漢字の書き取り問題です。楷書ではっきりと書く習慣をつけておいてほしいと思います。(オ)の「複雑」の「複」はしめすへんではなく、ころもへんです。

問八は本文の内容に合うものを選ぶ問題です。正解はウです。アは目に見えない自然を心臓に限定して述べているのがおかしく、心臓が規則正しく動くことと人間らしさとが関連するという記述は文中にはありません。イは「このまま保護を続けていくと」以降の記述が文章とは無関係です。エは「人間の意志も…自然の一部なのである」が文中には述べられていないことです。正解のウは1ページ下段56行目の「だけど、自然環境は失われても、体の自然は失われない。体とは、この地球上に残された最後の自然と言っていい。」という部分に対応します。

②は長江優子『タイドプール』からの出題です。物語文の読解では登場人物の人物関係を把握し、場面ごとの心理の変化を明らかにすることが求められます。文中に書かれていることを根拠にしなが、場合によっては行間を読む推察力も必要になります。ただ、今回の出題文は小学校が舞台であり、受験生の目線を読むことができる文章であると思います。

問一は4ページ上段11行目にある主人公の行動の意味を問う問題です。物語文では人物の行動によってその心理が描かれることが多いものです。前後の文章をよく読み、登場人物の心理の変化を読み取る必要があります。この問での私の「うなずき」は中太鼓に選ばれた(小林)みっちゃんが、自分が選ばれたことを信じられないでいることに対して、確認をしてあげる意味が含まれています。ここには批判的な意味はありません。よってイが正解になります。アはたなちゃんが小太鼓に選ばれたことが中心になっているのがおかしく、ウは「中太鼓などできるはずはない」という記述がおかしく、エはうなずきを自分のためだと解釈している点が不適當です。

問二は4ページ上段21行目の場面の状況を問う問題です。教室のどよめきの原因は小川さんが指揮者に選ばれなかった意外性です。それに、加えて25行目に「先生が注意しても興奮はしばらくおさまらなかった。」とありますので、「興奮」という言葉を使えばまとめやすくなります。

問三は空欄補充の問題です。指揮者に指名された主人公がその衝撃のあまり正気を失い、うわの空になっている状況を、4ページ下段30行目から44行目にかけて、筆者は会話引用の括弧を省略し、短い文をつなげることで表現しています。空欄の字数が指定されているのでこの状況さえ分かれば該当箇所は容易に見つかるはずです。

問四は5ページ上段63行目あたりの場面の状況に応じて登場人物の発言の意味を考える問題です。小川さんの「いろいろ言ってたけど」は楽器の割り当て発表についての話です。問二で考えたようにクラスメートのほとんどは小川さんが指揮者になると考えていたので、そのことを指定字数内でまとめます。

問五は5ページ上段76行目にある登場人物の気持ちを説明する問題です。親友だったちひろが急にそっけなくなっていたのがこの発言です。えり子はこのときその真意が分からなかったのですが、5ページ下段116行目以降にちひろが自分を不快に思って避けていたことに気づいたことが述べられています。そこを用いて指定字数以内でまとめます。

問六は5ページ下段105行目あたりの場面の状況を読む問題です。「場の空気を読む」は最近のはやり言葉のようですが、その場面ですべきしかるべき行動が何であるのかを察知するという意味です。ここでは専門楽器になれなかったマキの気持ちを察して鼓笛隊の話題を避けることがそれにあたります。

問七は慣用的表現に関する問題です。言葉への関心を深め、積極的に使ってみることが必要です。

問八は本文の内容に合うものを選択肢から探し出す問題です。正解はウです。アは「とうてい受け入れ難い内容」が間違いです。クラスメートは「興奮」はしましたが拒否はしていません。イは「その実力に疑問を感じていた」が間違い。文中にありません。エは「希望通りの楽器に指名された人とそうでなかった人との間の溝」が間違いです。ちひろもマキも希望通りの楽器に指名されており、楽器の指名が溝を作る原因になっているわけではありません。えり子が指揮者になったこと自体が人間関係の変化の直接の原因です。そのことが記されているのがウです。